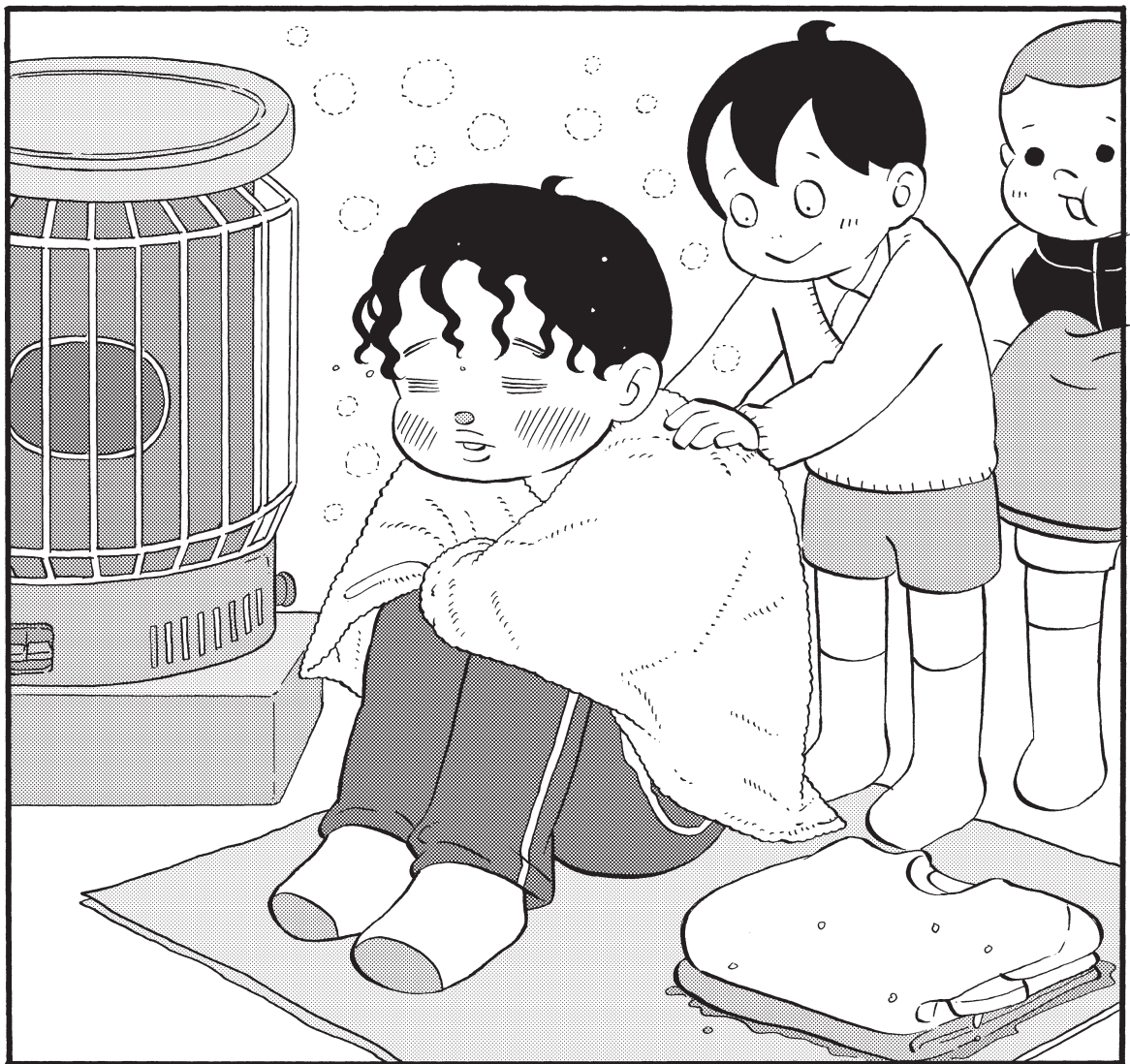




【地震後、津波が起こったら】

濡れた人を助ける

- ▶ 濡れた服を脱がせる
- ▶ 乾いたタオルなどで体を拭く
- ▶ 毛布、カーテン、バスタオルなどを体に巻いて、温める



濡れた人を助ける

■ 状況シートの説明



▶ 場面ごとの説明

- ① 避難所には近所の人たちが集まって来ていますが、暖房がなくとても寒いです。「寒いなあ」とだいちくん。みなとくんは、「みんなだいじょうぶかな」と心配です。
- ② その時、みなとくんは、ずぶ濡れでブルブル震えている人が避難所に入ってくるのを見ました。「あっ、あの人ずぶ濡れだ！」
- ③ 水びたしの服で、凍えている人が来たことを知ったみなとくんは、「○○○○」

▶ セリフの例 (行動)

- 「ずぶ濡れで震えている人がいます」
 「誰かタオルを持っていませんか」
 「毛布やコートはありませんか」

▶ 発問例

- ・ ずぶ濡れの人に対して、まずすることは何ですか？
- ・ 濡れた服をどのようにして乾かしますか？
- ・ タオルなどが無い時は、どうしたらいいですか？
- ・ こんな状況に対応するため、避難所に何を準備しておくといいですか？

■ 教訓シートの説明



▶ 濡れた服を脱がせる

- ・ 津波に巻き込まれたり、津波で水浸しになった道を歩いたため、ずぶ濡れになって避難して来る人がいます。
- ・ まず、濡れた服を脱いでもらいましょう。水に濡れた服は、体温をどんどん奪っていきます。

▶ 乾いたタオルなどで体を拭く

- ・ 乾いたタオルがあれば、濡れた体を拭きましょう。
- ・ タオルがない時は、カーテン、ティッシュなど手に入る物を活用しましょう。

▶ 毛布、カーテン、バスタオルなどを体に巻いて、温める

- ・ 体温が下がっていくと、命を失う危険があります。
- ・ 避難所にストーブなど、乾かしたり温めたりできる物を準備しておくことが大切です。
- ・ 暖房や着替えがない時は、毛布、カーテン、バスタオル、新聞紙、大きなビニール袋などを体に巻いて体を温めましょう。

■ 東日本大震災の教訓

東日本大震災が起こった日は雪が降り、とても寒くなりました。津波に巻き込まれてずぶ濡れになった人がいましたが、タオルも着替えもない避難所では、自分の服を1枚脱いで着せてあげた人や、体を温めるために一晩中体をさすってあげた人がいました。